
書 評・紹 介

由井義通編著

『女性就業と生活空間』 仕事・子育て・ライフコース

明石書店, 2012年9月, 262p.

「本書は、男女雇用機会均等法施行後における女性就業の変化とその地域格差と地域展開について、女性就業の多様化、大都市圏と非大都市圏における女性就業の生活の地域的差異、グローバル化に伴う女性就業の変化に焦点を絞ってまとめたものである。(中略)空間のジェンダー化とその地域的展開について、理論的研究と具体的事例研究の両面から地理学的追求を試みた。」と冒頭に書かれており、各章の執筆者は、全員が地理学を専門としている。

構成は序章と、第Ⅰ部の女性の就業、第Ⅱ部の女性の生活と子育て、第Ⅲ部の女性のライフコースの3部からなっている。序章では1986年の男女雇用機会均等法施行をはじめとする女性就業の変化について触れている。その中で、近年の女性就業が多様化していることから、地理学からのアプローチが重要との考えが示されている。第Ⅰ部の就業では、横浜市郊外における高卒女性のジョブサーチ、大都市周辺の農村である東広島市における介護サービス業で働く女性の事例が述べられ、高卒女性のジョブサーチではアンケート調査とインタビュー調査からジョブサーチへの空間的制約がフリータ化を促進していること、介護サービス業については正規・非正規職員による断片化された就業時間と既婚女性の勤務時間パターンとの関係について明らかにしている。第Ⅱ部の生活と子育てでは、働く女性の居住地選択と都市空間、ジェンダーからみた住宅問題、東京大都市圏における保育サービス供給の動向と地域的差異、放課後児童クラブの地域的展開が述べられている。シングル女性、子どものいない共働き世帯、子どものいる共働き世帯といったライフステージによって居住地選択で重視される項目が異なること、就業継続戦略としての親との同居・近居について明らかにし、シングル女性とマンション購入の背景についても触れている。保育サービスに関する分析では2005年前後のデータに基づくが、東京大都市圏における保育サービス供給の地域差を扱っている。最後の第Ⅲ部のライフコースでは、金沢と横浜の進学高校を対象にしたアンケート調査・インタビュー調査から、地域における高校卒業時の進路指導の違いがその後の就業形態に影響を及ぼしていることを明らかにしている。また、海外在留邦人数統計等を用いながらインタビュー調査によってオーストラリアの日本人留学生の実態に関する分析報告がある。最後の章では男性に偏りがちな国際人口移動において女性にも焦点を当てるべきとして、シンガポールで働く日本人女性の海外就業の決意と現地での日常生活の実態を記している。

本書からは女性就業の多様化には、女性を取り巻く空間と社会からのさまざまな制約が作用していることを明らかにしており、女性就業には多面的なアプローチが必要であることがよくわかる。人口移動研究でもライフコースや女性就業の多様化や変化を見ずに語ることはできないように、従来の視点での分析に留まってはいけないとの主張が印象に残る。内容は丁寧で大変読みやすく、女性就業の地域的差異に注目するならば、一読しておくべき書と思われる。なお、第1章とコラムを除き残りの多くの章は、執筆者達が地理学系の学術雑誌に発表した論文を加筆修正したものとなっている。

(貴志匡博)